

■個別排水処理事業債の状況

浄化槽整備事業の借入額とその残高

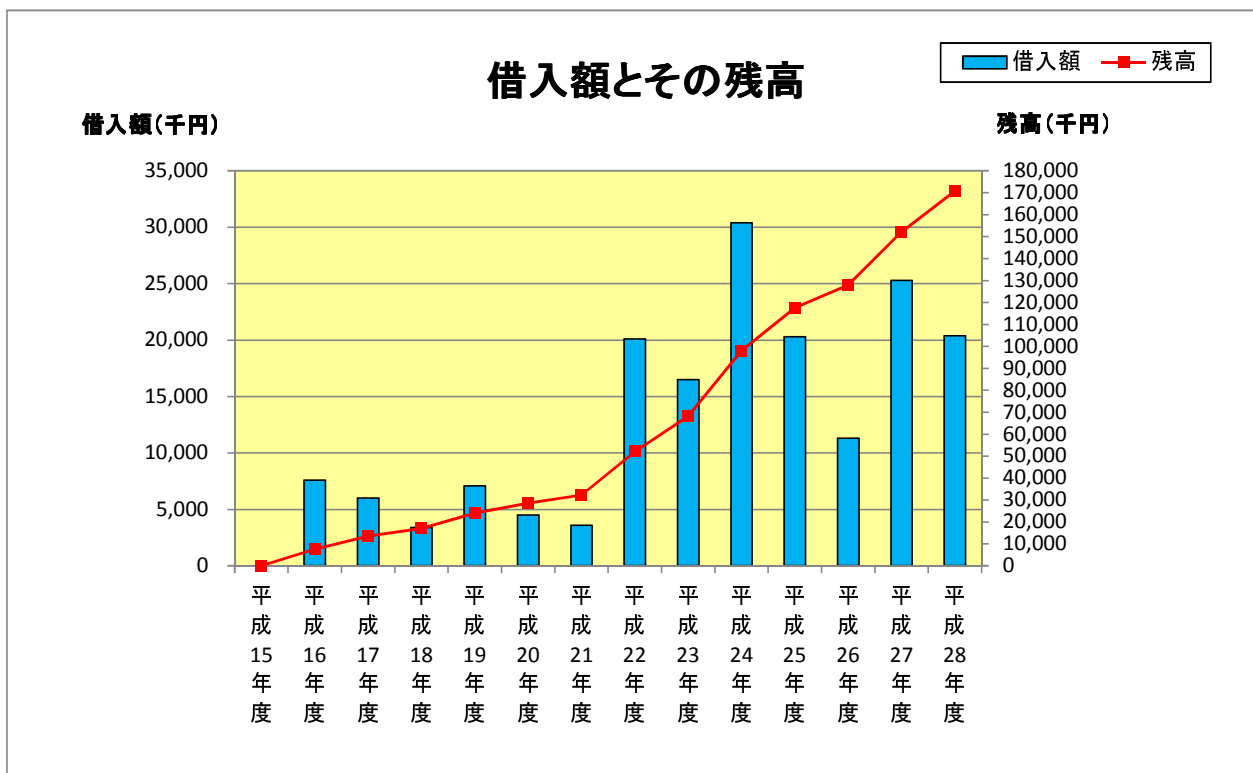
単位:千円

	借入額	残高
平成15年度	0	0
平成16年度	7,600	7,600
平成17年度	6,000	13,600
平成18年度	3,400	17,000
平成19年度	7,100	24,100
平成20年度	4,500	28,600
平成21年度	3,600	32,200
平成22年度	20,100	52,044
平成23年度	16,500	68,105
平成24年度	30,400	97,953
平成25年度	20,300	117,475
平成26年度	11,300	127,844
平成27年度	25,300	152,054
平成28年度	20,400	170,702
平成28年度末市全体の借入残高		55,173,163

市町村設置による浄化槽整備の建設財源の中で、国庫補助対象事業にあつては地方負担額の、地方単独事業にあつては事業費の大部分に、借入金(特定地域生活排水処理事業債)が充てられています。

その元利償還は長期に渡ることから、現在の利用者だけでなく将来の利用者にも負担を分散させることにより、世代間の負担の公平を図ることができます。

借入額残高は、平成28年度末で1億7,070万2千円と市全体の借入額の約0.31%を占めている状況にあります。



個別排水処理事業債の返済額の推移

単位:千円

	返済額		
	元金	利子	元利金合計
平成15年度	0	0	0
平成16年度	0	0	0
平成17年度	0	53	53
平成18年度	0	220	220
平成19年度	0	304	304
平成20年度	0	446	446
平成21年度	0	551	551
平成22年度	256	626	882
平成23年度	439	935	1,374
平成24年度	552	1,205	1,757
平成25年度	778	1,592	2,370
平成26年度	931	1,885	2,816
平成27年度	1,091	1,965	3,056
平成28年度	1,752	2,008	3,760

個別排水処理事業債はあくまでも借金であり、その返済額(元利償還費)の増加は財政を圧迫する要因となります。

個別排水処理事業は平成16年度からの事業であり、平成22年度から元金の返済が始まりました、今後、元金、利子を合わせるとますます増加する見込みです。

平成28年度の返済額は元利合計で、376万円であり、返済額の増加は、一般会計からの繰入金(市税等)等で補填することとなり、市の財政へ少なからず影響を及ぼすこととなります。

返済額の推移

返済額(千円)

